

国際交流政策懇談会最終報告書 提言のポイント

我が国がグローバル化時代をたくましく生き抜くことを目指して
—国際社会をリードする人材の育成—

グローバル化時代において我が国が発展するには不断のイノベーションの前提となる「知の国際化」を支えるための多様な人材の育成が必要。

具体的施策の実施に向けた提言

提言1. 若者の内向き志向の打破

(1) 大学の国際化

- 英語による授業の飛躍的な増大を目指す等カリキュラム改革
- 外国人教員の採用の拡大や国際社会で活躍した人材の活用
- 大学が行う国際教育協力活動等を通じて国際社会で活躍する人材を総合的、体系的に養成するための計画を関係省庁等と連携して策定
- 青年海外協力隊の活動を評価して学位取得が可能となるプログラムの開発
(参考：広島大学大学院「ザンビア・プロジェクト」)
- 入試におけるTOEFL等の公的英語能力試験結果の活用
- 一定の語学力の習得を大学の卒業要件とすることを検討

(2) 質の保証を伴った大学間連携の推進

- 日中韓による「キャンパス・アジア」構想の着実な推進
- ユネスコ アジア太平洋地域の高等教育に関する地域条約の改正、我が国の早期加盟

(3) 経済界への要望

- 企業の選考、採用活動の時期の見直し、日本版ギャップイヤーの導入
- 学生の海外経験を採用にあたって評価

提言2. 学校の国際化

(1) 教員の海外経験の拡充

- 若手英語教員の米国派遣の開始
- 青年海外協力隊の現職教員特別参加制度の拡充（応募資格年齢の引き上げ、私学まで対象を拡大）
- 日中、日韓、日米間の教員交流事業の推進

(2) インターナショナルスクール、国際バカロレアへの対応

- 1条校化を希望するインターナショナルスクールへの必要な情報提供
- 国際バカロレアの全国への周知・普及の促進

(3) ESD（持続発展教育）の推進拠点となるユネスコスクールの拡充

提言3. 定住外国人の子どもの就学支援

- 「虹の架け橋教室」事業（平成21年度～平成23年度終了予定）の継続の検討